

# PARP 阻害薬投与後の再発卵巣がん・卵管がん・原発性腹膜がんに対するベバシズマブを併用した化学療法の有用性に関する調査研究

## 1. 研究の対象

2019年4月1日から2025年3月31日まで、岩手医科大学附属病院産婦人科および八戸赤十字病院産婦人科で PARP 阻害薬投与後に再発卵巣がん・卵管がん・原発性腹膜がんと診断され、化学療法を受けられた方

## 2. 研究目的・方法

目的：PARP 阻害薬投与後に再発をきたした卵巣がん・卵管がん・原発性腹膜がんに対し化学療法を行った症例の調査研究を行い、患者背景および治療の有用性を把握し、今後 PARP 阻害薬投与後の再発がんに対する前向き臨床試験を計画する際の有力な情報とすることを目的としています。

方法： 調査項目について、エクセル入力形式で行います。ディスクにてエクセル入力ファイルを郵送し調査項目入力後は研究事務局へ返信用封筒にて返信します。研究用 ID は施設名と連続した通し番号で記入します。カルテ番号、イニシャルなど患者を特定できる情報は用いません。

調査期間：2019年4月1日から2025年3月31日

目標調査症例：56例

研究期間：研究実施許可日から2026年3月31日

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

<患者背景因子>

臨床診断、年齢、PS、進行期、組織型、化学療法歴（既往レジメン数、ベバシズマブ使用の有無、直前に投与した PARP 阻害薬の種類）、再発部位

<治療関連因子>

初回治療（手術）日、PFI (platinum-free interval)、化学療法（ベバシズマブ併用の有無、種類）、サイクル数、治療期間、抗腫瘍効果、有害事象

<転帰>

再発の有無、再発確認日、無増悪生存期間（PFS）、全生存期間（OS）、最終生存確認日

<1次評価項目>

## PFS

### <2次評価項目>

奏効割合、OS、有害事象

### <統計学的解析>

奏効割合と有害事象は Chi-squared test、生存期間に関しては Kaplan-Meier 法を用いて全生存関数を推定した上で描画し、ログランク検定によりベバシズマブ併用および非併用群の PFS、OS 算出し比較検討する。またそれぞれの因子で多変量解析をおこない、独立予後因子を検討する。

## 4. 外部への試料・情報の提供

研究事務局へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。送付されたディスクはデータを保管し直ちに破棄します。個人を特定するための情報（表）は、研究事務局の研究責任者が保管・管理します。これらの記録は、提供先で5年、提供元で3年保管とします。

## 5. 個人情報の取扱いについて

研究結果を学会発表・論文投稿で行う予定ですがその場合も個人を特定できる情報が用いられることはありません。また、本研究によって得られたデータに基づいて二次的な研究が行われる可能性があります。その場合も倫理審査委員会で審査・承認され研究機関の長の研究実施許可が得られた後、改めて情報公開を行います。

## 6. 本研究で取り扱いする情報の保管と廃棄について

本研究で得られたデータは、研究終了日から5年または結果公表日から3年のいずれか遅い日まで保管されます。

## 7. 研究組織

岩手医科大学附属病院産婦人科 研究責任者 庄子忠宏

八戸赤十字病院産婦人科 研究責任者 會田剛史

## 8. 研究費および利益相反

本研究は岩手医科大学産婦人科学講座の講座研究費を用いて行われます。本研究に関わる研究者は、利害関係が想定される企業等との経済的な利益関係はありません。

## 9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

岩手医科大学附属病院産婦人科 庄子 忠宏

研究事務局：岩手医科大学附属病院産婦人科

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通 2-1-1

TEL: 019-613-7111 (内線 3769) FAX: 019-907-6749

E-mail: tshoji@iwate-med.ac.jp

研究代表者および研究責任者：岩手医科大学附属病院産婦人科 准教授 庄子忠宏